

千葉大学大学院医学薬学府 修士課程学生募集要項

平成29年10月入学（総合薬品科学専攻）

平成29年6月

千 葉 大 学

千葉大学大学院医学薬学府 修士課程学生募集要項

(総合薬品科学専攻 平成29年10月入学)

1. 募集人員

専攻名	募集人員
	平成29年度10月入学
総合薬品科学専攻	若干名

2. 出願資格

- (1) 大学（学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大学をいう。以下同じ。）を卒業した者及び平成29年9月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成29年9月までに学士の学位を授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び平成29年9月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成29年9月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成29年9月までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び平成29年9月までに学士の学位に相当する学位を授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること。その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学府において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (10) 平成29年9月までに次の各号の一に該当する者であって、本学府の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
 - ① 大学に3年以上在学した者
 - ② 外国において、学校教育における15年の課程を修了した者
 - ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者
 - ④ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (11) 本学府において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したものと及び平成29年9月までに22歳に達するもの

注：出願資格(9)、(10)、(11)により出願しようとする者については、3ページ「5. 出願資格の審査・認定」を参照してください。

3. 出願手続

(1) 出願受付期間

平成29年7月25日（火）から7月27日（木）まで

郵送の場合、最終日17時までに**必着**とします。必ず簡易書留とし、封筒の表に「医学薬学府修士課程入学願書在中」と**朱書き**してください。

持参の場合、受付は9時から17時までとします。（12時から13時までを除く。）

どちらの場合も受付期間内に到着しない場合は、受理しません。

注：応募に際しては、あらかじめ主たる指導を希望する指導教授に必ず照会の上出願してください。

(2) 願書提出先

千葉大学薬学部学務係 〒260-8675 千葉市中央区亥鼻1-8-1

4. 出願書類等

志願者は下記の書類等を提出してください。

出 願 書 類 等	摘 要
①入学願書	本大学院所定の用紙。必ず裏面の貼り付け欄に検定料の振込証明用「貼付用（大学提出用）」をのり付けしてください。
②写真票・受験票	本大学院所定の用紙
③検定料（30,000円） 右記のとおり振込となります。	<p>●日本国内在住の志願者 出願前に本募集要項の指定用紙（振込依頼書）にて銀行等（ゆうちょ銀行を除く。）で振り込んでください。（自動振込機は使用せず、必ず窓口で振り込んでください。）振込手数料は本人負担となります。 また、「領収書（保管用）、振込証明用（貼付用）」は金融機関から受領した際に必ず取扱金融機関の出納印を確認の上振込証明用「貼付用（大学提出用）」を願書裏面の貼り付け欄にのり付けしてください。 なお、外国人志願者のうち日本政府（文部科学省）国費外国人留学生は不要です。</p> <p>●海外在住の志願者 この募集要項に添付された所定用紙の「振込依頼書」は、日本国内の銀行のみ使用可能です。日本国内に知人等がない場合は、クレジットカード決済により、検定料30,000円の払込手続をしてください。なお、検定料の払込手続きは出願前に済ませてください。</p> <p>(1) 千葉大学ホームページ（http://www.chiba-u.jp）の〈受験生の皆様へ〉にアクセスし、〈入試案内〉→〈海外からの検定料支払い〉により検定料払込手続きを行ってください。</p> <p>(2) 検定料の払込手続終了後、千葉大学より申込内容確認のメールが送信されます。内容を確認後、そのメールを担当係へ転送してください。</p> <p>注1. 入学願書の裏面にある「検定料納入方法」の「クレジットカード決済」欄にチェックを入れてください。</p> <p>注2. クレジットによる検定料の払込手続き期間は、平成29年6月19日（月）～7月27日（木）までです。なお、出願書類を提出する前に払込手続きをしてください。</p> <p>注3. 利用できるクレジットカードの種類については、検定料払込手続の際にホームページで必ず確認してください。</p> <p>※いったん納入した検定料は原則として返還しませんが、検定料を誤って振り込み、出願しなかった者が平成30年3月30日（金）17時までに所定の返還手続を行った場合は、検定料の全額を返還しますので、薬学部学務係に確認してください。</p>
④卒業（見込）証明書	出身大学（学部）長が証明したもの。
⑤成績証明書	出身大学（学部）長が作成したもの。 2. 出願資格(3), (4), (5), (6)及び(10)の②～④に該当する者は、成績証明書及び「学位記」の写しを提出してください。

出願書類等	摘 要
⑥学位授与証明書	2. 出願資格(2)に該当する者で、大学改革支援・学位授与機構が証明したものの。
⑦学位授与を申請する旨の証明書	2. 出願資格(2)に該当する者で、短期大学長又は高等専門学校長が証明したものの。
⑧写 真 (2枚)	上半身、正面、脱帽のもので、縦4cm×横3cm、出願前3か月以内に撮影した写真を写真票及び受験票の該当欄に貼り付けてください。
⑨受験票送付用封筒	長型3号封筒(23.5cm×12cm)に郵便番号、住所、氏名を明記し、郵便切手(82円分)を貼り同封してください。
⑩履歴書(外国人用)	本大学院所定の用紙(出願資格審査時に提出済の場合、再提出不要。)
⑪住民票 (外国人志願者のみ)	市区町村長が交付したものの。(在留期間、在留資格が明記してあるもの。) なお、外国人登録をしていない者は、提出不要。
⑫パスポートの写し (外国人志願者のみ)	氏名等が記載されているページの写し。
⑬TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP Level 1, TOEIC公開テスト(L&R), TOEIC-IPのスコアカードの写し	平成26年4月1日以降に受験した、TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP Level 1, TOEIC公開テスト(L&R), TOEIC-IPの成績が記載されたスコアカードの写しを提出してください。もし、出願期間に間に合わなかった場合には、薬学部学務係に確認してください。 なお、受験していない場合は、「TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP Level 1, TOEIC公開テスト(L&R), TOEIC-IPを受験しなかった旨」を記載したものの(様式任意)を提出してください。
⑭入試関係通知書等受取先住所シール	本大学院所定の用紙(出願資格審査時に提出済の場合、再提出不要。)

5. 出願資格の審査・認定

2. 出願資格(9), (10), (11)により出願しようとする者については、次のとおり出願資格の審査・認定を行います。

(1) 提出書類

提出書類	摘 要
入学試験出願資格認定申請書	本大学院所定の用紙
研究業績調査書	本大学院所定の用紙(該当する場合のみ。)
成績証明書	出身学校(学部)長が作成したものの。 外国において学校教育における15年の課程を修了した者は、成績証明書及び卒業証明書。
出身学校(学部、学科等)規程	卒業に必要な授業科目・単位数のわかるもの。
履歴書(外国人用)	本大学院所定の用紙
入試関係通知書等受取先住所シール	本大学院所定の用紙

(2) 提出期間

平成29年7月4日(火)から7月6日(木)まで

郵送の場合、最終日17時までに**必着**とします。その際は必ず簡易書留とし、封筒の表に「医学薬学府修士課程出願資格審査書類在中」と**朱書き**してください。

持参の場合、受付は9時から17時までとします。(12時から13時までを除く。)

どちらの場合も、受付期間内に到着しない場合は、受理しません。

(3) 提出先 願書提出先とします。

(4) 審査及び認定 提出書類により審査し、認定します。

(5) 審査・認定の結果は、平成29年7月21日(金)までに本人宛通知します。

6. 選抜方法及び期日

選抜は、学力検査（面接を含む）、成績証明書等を総合して行います。

① 学力検査期日及び科目

期 日	学 力 検 査 科 目	時 間
平成29年 8月18日（金）	基 礎 科 目 （物理化学3題，有機化学3題， 生物化学3題から試験場で3題 選択する。）	10：00～12：00
8月19日（土）	面 接	13：00～

各学力検査科目の配点を下表のとおりとします。

学 力 検 査 科 目	配 点
外国語（英語） （TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP Level 1, TOEIC公開 テスト（L&R）, TOEIC-IPのスコアを100点に換算）	100
基礎科目	200
面接試験	100

② 学力検査及び面接場所 千葉大学薬学部

7. 合格者発表

平成29年9月11日（月）13時 発表場所：薬学部掲示板

上記の日時により発表する（掲示期間は3日間）とともに、合格者には合格通知書を交付します。

8. 注意事項

- (1) 入学試験に関する詳細については、平成29年8月17日（木）10時に、薬学部掲示板に掲示します。
- (2) 出願書類に不備がある場合には、受理しないことがあります。
- (3) いかなる理由があっても、出願手続き後の書類の変更、受理した出願書類の返却及び検定料の返還はしません。
- (4) 車での来学はできるだけ避けてください。
- (5) 入学願書等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- (6) 電報、電話等による可否の問い合わせには一切応じません。
- (7) 入学者選抜の過程で収集した個人情報は入学者選抜の実施のほか、管理運営業務、修学指導業務、入学者選抜方法等における調査・研究に関する業務等を行うために利用します。

9. 入学手続

- (1) 入学手続期間：平成29年9月22日（金）
- (2) 入学手続場所：千葉大学薬学部
- (3) 入学時の必要経費

① 入学料 282,000円

入学料の納入については、入学手続時に納入願います。

授業料の納入については、入学後の後期分授業料は11月に、前期分授業料は4月に口座引落としにより納入願います。口座引落とし等についての詳細は入学手続の際に改めてお知らせします。

なお、前期分・後期分授業料はそれぞれ267,900円（年額535,800円）です。
また、入学して2年目から、後期分授業料は10月が口座引落しの月となります。
入学料及び授業料等の改定が行われた場合には、改定時から新入学料及び新授業料等が適用されます。
入学料及び授業料が免除される制度があります。

詳細は、千葉大学ホームページ

<http://www.chiba-u.ac.jp/campus-life/payment/exemption.html> をご覧ください。

入学料及び授業料免除に関する問い合わせ先

学務部学生支援課 電話 043-290-2178

- ② 学生保健互助会費 4,000円（2年分） 全員加入（郵便局又はゆうちょ銀行で払込）
（疾病負傷の際に相互に救済し、進んで健康保持に寄与することを目的としております。）
（注）詳細は、学生保健互助会（Tel 043-290-2220）にお問い合わせください。

- ③ 学生教育研究災害傷害保険料（学研災付帯賠償責任保険含む）
2,430円 全員加入（郵便局又はゆうちょ銀行で払込）

※正課中、学校行事中、課外活動中、通学中における傷害事故に対して補償するものです。また、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊した場合の補償も含まれます。保険料の改定が行われた場合には、改定時から新保険料が適用されます。

（注）詳細は、学務部学生支援課（Tel 043-290-2162）にお問い合わせください。

注1. いったん納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。

注2. 外国人合格者で日本政府（文部科学省）国費留学生は入学料、授業料は必要ありません。

(4) 奨学金制度

日本学生支援機構において大学院学生に対する貸与制度があります。

この選考は、学業成績及び研究能力、家庭の経済的事情等審査の上、日本学生支援機構に推薦するものです。

- (5) 提出書類、その他入学手続上の詳細は、合格者本人に別途通知します。

【問い合わせ先】

本大学院の内容及び出願方法についての問い合わせは、下記をお願いします。

〒260-8675 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学薬学部学務係

電話 043-226-2862

ホームページ <http://www.p.chiba-u.jp/>

E-mail yakugaku-in@chiba-u.jp

医学薬学府案内

1. アドミッションポリシー

千葉大学大学院医学薬学府の求める入学者

千葉大学大学院医学薬学府は、医学薬学融合型の大学院として、医学・薬学並びに関連する専攻分野において、研究者として自立し研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うとともに、全人的視野に立った医療従事者、医学薬学の知識を持つ先端的生命科学研究者を育成することを目的としています。この目的の実現のため、十分な学力を基盤として、創成的医療と創造的医学薬学研究に積極的に取り組む学生の入学を求めています。

【4年博士課程】

(1) 先端医学薬学専攻

先端医学薬学専攻が求める入学者

先端医学薬学専攻は、医学・薬学並びに関連分野において創造的、先端的研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識、全人的視野を有する医療従事者、生命科学研究者を育成することを目的としています。この目的の実現のため、十分な学力を基盤として、創成的医療と先端的医学・薬学研究に積極的に取り組む学生の入学を求めています。

(2) 先進予防医学共同専攻

先進予防医学共同専攻が求める入学者

先進予防医学共同専攻は、従来の衛生学・公衆衛生学分野を基盤とし、新たな方法論として、オミクス情報からマクロ環境情報まで個人や環境の特性を網羅的に分析・評価し、教育研究分野や医療分野等で、0次予防から3次予防まで包括した個別化予防を実践できる人材の育成を目指しています。先進的な予防医学研究に熱意を持って取り組む意欲あふれる学生の入学を求めています。

【後期3年博士課程】

先端創薬科学専攻

先端創薬科学専攻が求める入学者

先端創薬科学専攻は、薬学並びに関連する専攻分野において、国際性豊かな独創的研究を展開し、医薬品の開発や臨床応用を通じて、人類の健康や福祉の促進に貢献する先端的研究者を目指す人を求めています。

【修士課程】

(1) 医科学専攻

医科学専攻が求める入学者

医科学専攻は、新たな学問体系を網羅する多様な知識を備え、科学の社会的役割ないし責任を正しく理解できる豊かな人間性を持ち、かつ21世紀の国民のニーズに応え得る医学・医療系の人材の育成を目指しています。この目的の実現のため、一般的基礎知識に裏付けられた広い視野と柔軟な思考力を持った学生の入学を求めています。

(2) 総合薬品科学専攻

総合薬品科学専攻が求める入学者

総合薬品科学専攻は、総合科学である薬学の高度な知識を身に付けるとともに、疾病の診断・治療・予防に用いられる医薬品の社会的諸側面を正しく理解できる人材の育成、さらにグローバルに展開する基礎から応用に至る医薬品開発研究を自立的に担う人材の育成を目指しています。この目的の実現のため、基礎知識に裏付けられた広い視野と柔軟な思考力を持った意欲ある学生の入学を求めています。

2. 教育課程及び担当教員等

医学薬学府の修士課程、4年博士課程及び後期3年博士課程は、それぞれ次の専攻・コースから構成されています。

修士課程

専攻	コース名	取得できる学位
医科学専攻	基礎医科学コース, 展開医科学コース, 社会医学コース	修士(医科学)
総合薬品科学専攻		修士(薬科学)

4年博士課程

専攻	コース名	取得できる学位
先端医学薬学専攻	先端生命科学(初期受け入れコース), 免疫統御治療学, 先端臨床医学薬学, がん先端治療学	博士(医学)又は博士(薬学)
先進予防医学共同専攻		博士(医学)

後期3年博士課程

専攻	コース名	取得できる学位
先端創薬科学専攻		博士(薬科学)

※4年博士課程においては、取得単位と学位論文の内容により、博士(医学)又は博士(薬学)のいずれかが取得できます。

修士課程において開設する授業科目については、別表1「授業科目並びに担当教員」を参照してください。

また、学位論文の指導については、別表2「指導教授別研究テーマ」を参照してください。

3. 課程の修了要件及び履修方法

修士課程

① 修了要件

34単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

② 履修方法

単位修得の認定は、試験又は研究報告等によって行う。

1) 修士(医科学)の学位の授与を受ける場合は、特論は13単位以上を修得する。修士(薬科学)の学位の授与を受ける場合は、特論、概論14単位以上を修得する。

2) 修士(医科学)及び修士(薬科学)の学位の授与を受ける場合は、特別実験16単位及び演習4単位を修得する。

4. 大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例措置の導入について

大学院の課程においては教育上特別の必要があると認められる場合には、大学院設置基準第14条に基づき、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行う特例措置が認められています。

本大学院は、従来の医学領域及び薬学領域に加え、新しい医学薬学境界領域における学問に精通した研究者や高度の専門職業人の育成を目的として設立するところであり、この特例措置を導入し教育方法の弾力化を図り履修し易い環境を整備した上で、すでに教育研究の現場において活躍している人材やすでに社会の第一線において活躍している社会人を積極的に受け入れていく方針です。

教育方法の特例措置は個々の修学体制に応じ授業科目の履修及び研究指導の計画を設定しますので、特例措置を適用して受け入れられる体制は研究室単位又は年度毎で状況異なりますので、この特例措置を受けようとする志願者は、事前に志望する指導教授に当該研究室の受け入れ体制を照会の上、出願してください。

授業科目並びに担当教員

総合薬品科学専攻

備考 ※の担当教員は平成30年4月1日以降変更予定

授業科目(特論)	担 当 教 員					
薬 化 学	教 授 根 本 哲 宏	助 教 原 田 慎 吾	助 教 中 島 誠 也			
薬 品 合 成 化 学	教 授 西 田 篤 司	准 教 授 荒 井 秀	助 教 原 田 真 至			
生 体 機 能 性 分 子 学	教 授 高 山 廣 光	准 教 授 北 島 満 里 子	助 教 小 暮 紀 行			
活 性 構 造 化 学	教 授 石 橋 正 己	准 教 授 荒 井 緑	助 教 石 川 直 樹			
製 剤 工 学	教 授 森 部 久 仁 一	講 師 東 顕 二 郎	助 教 植 田 圭 祐			
薬 品 物 理 化 学	※ 教 授 根 矢 三 郎	准 教 授 星 野 忠 次	助 教 米 田 友 貴			
遺 伝 子 資 源 応 用	教 授 齊 藤 和 季	准 教 授 山 崎 真 巳	講 師 吉 本 尚 子			
遺 伝 子 創 薬 学	客 員 教 授 中 山 学	客 員 教 授 鈴 木 秀 幸	客 員 准 教 授 大 関 淳 一 郎			
分 子 細 胞 生 物 学	教 授 山 口 直 人	講 師 福 本 泰 典	助 教 山 口 憲 孝			
生 化 学	教 授 伊 藤 素 行	助 教 溝 口 貴 正	助 教 殿 城 亜 矢 子			
微 生 物 薬 品 化 学	教 授 川 島 博 人	准 教 授 高 屋 明 子	助 教 平 川 城 太 朗			
病 態 分 析 化 学	教 授 戸 井 田 敏 彦	准 教 授 西 村 和 洋	助 教 東 恭 平			
分 子 画 像 薬 品 学	教 授 荒 野 泰	准 教 授 上 原 知 也	助 教 鈴 木 博 元			
予 防 薬 学	教 授 小 椋 康 光	准 教 授 鈴 木 紀 行				
環 境 毒 性 学	客 員 教 授 中 島 大 介	客 員 教 授 青 木 康 展	客 員 准 教 授 小 林 弥 生			
薬 効 薬 理 学	教 授 村 山 俊 彦	准 教 授 中 村 浩 之				
薬 物 学	教 授 秋 田 英 万	准 教 授 小 林 カ オ ル	特 任 助 教 田 中 浩 揮			
生物薬剤学/臨床薬理学	教 授 伊 藤 晃 成 助 教 青 木 重 樹	教 授 樋 坂 章 博 助 教 佐 藤 洋 美	講 師 関 根 秀 一 助 教 畠 山 浩 人			
社会薬学・実務薬学	教 授 佐 藤 信 範 助 教 櫻 田 大 也	教 授 関 根 祐 子 助 教 大 久 保 正 人	准 教 授 小 林 江 梨 子 特 任 助 教 稲 川 知 子			
医 療 薬 学 ・ 分 子 心 血 管 薬 理 学	教 授 石 井 伊 都 子 助 教 藤 吉 正 哉	教 授 高 野 博 之 特 任 助 教 橋 本 直 子				
医 薬 品 開 発 学	教 授 佐 藤 信 範	准 教 授 小 林 江 梨 子	助 教 櫻 田 大 也			
創薬生命科学基礎概論	教 授 西 田 篤 司	教 授 山 口 直 人	他			
国 際 創 薬 科 学	教 授 戸 井 田 敏 彦	特 任 助 教 Amit Rai	特 任 助 教 山 形 一 行			
生 命 情 報 科 学	教 授 白 澤 浩					

指導教授別研究テーマ

総合薬品科学専攻

備考 ※の担当教員は平成30年4月1日以降変更予定

指導教授 研究室名	研 究 テ ー マ
根本 哲 宏 薬化学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品合成に有用な高効率分子変換法の開発 2. 合成プロセスの短工程化を実現する触媒的合成法の開発 3. 生物活性有機化合物の合成 4. エピゲノム異常制御の為の機能性分子合成
西田 篤 司 薬品合成化学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遷移金属, 希土類金属を利用する新反応の開発と不斉合成への応用 2. 脂質代謝関連物質の合成と脳機能解明および新規抗マalaria剤開発への応用 3. 生物活性含窒素天然物の全合成研究と医薬先導化合物の設計と創製 4. 新規複素環ライブラリーの開発を目的とする固相及び液相コンビナトリアル合成法の開発
高山 廣 光 生体機能性分子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬用資源植物からの新しい活性分子種(創薬シード分子)の追求(主に含窒素天然物の単離, 精密構造解析, 構造変換) 2. 有用生物活性天然物の合成化学研究(不斉全合成, 化学変換, 構造修飾, 効率的供給法の開発) 3. 創薬先導化合物の創製(天然物・合成化合物ライブラリーを活用したメディシナルケミストリー研究, 作用発現の分子機構の解明)
石橋 正 己 活性構造化学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生物活性天然物の探索と構造研究 2. 創薬・生命科学の進展に寄与する低分子化合物の分子設計・探索・創製, シグナル伝達分子を標的としたスクリーニング 3. 新規活性天然物の全合成・多様性志向型合成・ケミカルライブラリー合成, 生物活性低分子の活性機構解明・天然物基盤ケミカルバイオロジー
森部 久仁一 製剤工学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 固体医薬品の性質に関する研究 2. 固体分散系中での医薬品分子状態の研究 3. 有機化合物のメカノケミストリー 4. サブミクロン粒子の調製と性質の検討 5. DDSキャリアーとしてのリポソームの研究
※根 矢 三 郎 薬品物理化学	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘムおよびヘムたんぱく質の物理化学的機能解析と生物無機化学 2. 生体分子と生体金属原子の実験的, 理論的機能解析 3. 計算機支援による薬物設計 4. エイズ治療に向けたウイルス学的研究 5. 光線動力学的治療のためのポルフィリン化合物の分子設計
齊藤 和 季 遺伝子資源応用	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬用植物における有用物質生産の機構と制御の分子生物学的理解 2. ポストゲノム科学の新薬用資源開発への応用 3. 高等植物の環境応答と関連した物質代謝の分子機構 4. メタボロミクスを基盤としたシステム生物学 5. 生薬と漢方の情報学的解析

指導教授 研究室名	研 究 テ ー マ
山口直人 分子細胞生物学	1. がん細胞増殖におけるチロシンリン酸化シグナル伝達の研究 2. 核内チロシンリン酸化シグナルによるクロマチンダイナミックスの研究 3. DNA傷害におけるチロシンリン酸化の役割解明 4. がん悪性化に関わる遺伝子発現制御機構の解析 5. がん細胞における上皮間葉転換の役割解明
伊藤素行 生化学	1. 細胞間情報伝達機構 2. 神経細胞の分化と行動の発達機構 3. 細胞移動機構：形態形成とがん化 4. 細胞間情報伝達と代謝・老化 5. 老化と記憶低下
川島博人 微生物薬品化学	1. リンパ球体内動態と獲得免疫における糖鎖機能の解明 (1) 糖鎖合成酵素欠損マウスを用いた解析 (2) 新規抗糖鎖抗体を用いた解析 2. スギ花粉アレルゲンの糖鎖修飾に着目した新規花粉症治療法の開発 3. 糖鎖合成酵素欠損マウスを用いた大腸炎発症メカニズムの解明 4. 細菌感染と感染宿主応答の分子機構の解明 5. シャペロンによる機能蛋白質認識機構の解明 6. 抗菌薬耐性に関する研究
鈴木秀幸 遺伝子創薬学	1. オミックス解析（トランスクリプトーム及びメタボローム統合解析）に必要な解析ソフトの開発 2. オミックス解析技術を利用した機能性代謝物の生合成研究 3. 機能性代謝物のメタボローム解析
中山学 遺伝子創薬学	1. ゲノム改変技術の開発と疾患モデルマウスの創出に関する研究 2. ヒト一般病の関連遺伝子同定のためのコンデシヨナルノックアウトマウス・パイプライン構築に関する研究 3. 神経系で発現する巨大蛋白質群の包括的機能解析に関する研究
戸井田敏彦 病態分析化学	1. 網羅的複合糖質糖鎖分析系の確立 2. 硫酸化多糖類の免疫系への作用 3. ポリアミンによる蛋白質合成促進機序 4. NMDA受容体の構造・機能解析とチャネルブロッカーの開発 5. 脳梗塞とアクロレイン
荒野泰 分子画像薬品学	1. テクネチウム錯体の新規設計を基盤とするSPECTプローブの開発 2. 抗体やペプチドを利用したDDS 3. がん治療効果の早期判定および治療指針選定に有用な分子イメージングプローブの開発 4. ガリウムを用いたPETプローブの新規開発

指導教授 研究室名	研 究 テ ー マ
小 椋 康 光 予防薬学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体による類金属元素代謝の分子基盤の解明 2. 重金属結合依存的な転写誘導機構の解明 3. 細胞分化に伴うメタローム解析とその応用 4. レアメタルのリスクアセスメント 5. 疾病の断・治療のための新規機能性分子の開発 6. タンパク質の発現・輸送を可視化する蛍光ラベル化法の開発 7. 光化学反応に関する研究と生体への応用
中 島 大 介 環境リスク	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多種・新規化学物質曝露の包括的把握・網羅的分析手法の開発に関する研究 2. 事故・災害時等の緊急環境調査手法の高度化に関する研究 3. 都市大気中の有害化学物質の長期トレンドに関する研究 4. 分析毒性学的手法を用いた半金属元素の代謝機構の解明
青 木 康 展 環境リスク	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高感受性動物を用いた環境化学物質の体内突然変異 (in vivo mutagenesis) 発現メカニズムの解明 2. 環境変異原物質を検出するための遺伝子導入魚の開発 3. ダイオキシン類の毒性発現に関与する遺伝子発現調節機構の解明 4. 環境有害因子の毒性発現およびその防御機構の解明
村 山 俊 彦 薬効薬理学	<ol style="list-style-type: none"> 1. セラミド代謝系酵素群の分子薬理学的解析と創薬標的としての薬理学的検証 2. セラミド, スフィンゴ脂質やその誘導体の生理・薬理作用の解析 3. ニーマンピック病, 多発性硬化症, 特発性肺線維症 (IPF) などの希少・難治性疾患に対する治療薬の開発 4. 生体内情報伝達物質とその受容体, シグナル伝達機構, 細胞応答に関する研究 5. ホスホリパーゼの活性制御機構, 調節因子に関する分子薬理学的研究
秋 田 英 万 薬物学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 低分子・高分子の体内・細胞内動態制御ナノ技術の開発 2. 癌免疫療法・遺伝子/核酸治療・診断法の開発 3. 人工染色体ベクターを用いて作製した薬物動態関連因子ヒト化マウスの代謝動態研究への応用 4. 三次元培養したヒト肝ガン由来細胞の核内受容体研究への応用 5. 次代創薬研究の技術基盤としての新規ヒト不死化細胞を用いたヒトモデルの確立
伊 藤 晃 成 生物薬剤学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物毒性発現メカニズム解明に関する研究 2. 薬物毒性発現リスク予測に関する研究 3. がん細胞内エネルギー代謝と薬物感受性に関する研究
高 野 博 之 分子心血管薬理学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心不全の病態解明と新規治療法の開発 2. 心疾患モデル動物の開発と病態解析 3. 虚血性心疾患に対する再生治療の開発 4. 血管新生の分子機序の解明 5. 動脈硬化の発症および進展における炎症・免疫機構の関与に関する研究 6. 高血圧治療や心不全治療の最適化を目指すための臨床研究 7. 心筋症・心筋炎の病理学的解析

指導教授 研究室名	研 究 テ ー マ
佐藤 信 範 社会薬学	1. 薬剤師及び薬局機能に関する研究 2. 後発医薬品の評価に関する研究 3. 医薬品情報の収集・評価・提供に関する研究 4. 小中高生への薬学的視点からの教育に関する研究 5. 薬事及び保険制度に関する研究
関根 祐 子 実務薬学	1. 関節リウマチ患者における手術前後の抗リウマチ薬投与の影響に関する研究 2. 先発点眼薬と後発点眼薬の薬効評価に関する研究
樋坂 章 博 臨床薬理学	1. モデリングとシミュレーションを適用した臨床薬理学的研究 2. アルツハイマー病、メタボリックシンドローム等の疾患モデリングの研究 3. メタボローム解析を適用したガン増殖抑制に関する研究
石井 伊都子 医療薬学	1. 高脂血症における薬物動態に関する研究 2. 血管の異常に関する薬物代謝の変化 3. 薬物の投与設計に関する研究 4. 薬物治療の個別最適化のためのPGx研究 5. 薬物相互作用に関する研究